



KHR-1

オプション・インプレッション Option-Inspression

あずさ
梓 みきお

空前のヒットとなっている二足歩行ロボットキット「KHR-1」発売元の近藤科学(株)からは続々とアフターパーツがリリースされている。グズグズしていたら時代に取り残されそうなので、気になるオプションパーツたちをさっそくチェックしていくぞ!

「KHR-1 ってナニ？」 という人のために

「KHR-1」は、2004年の夏に発売された二足歩行ロボットキット。プロトタイプは「ROBO-ONE J-class」を制覇したという、血統書つきの機体である。登場からまだ半年そこそこしか経っていないが、オプションパーツが矢継ぎ早にリリースされている、今最もアツい二足歩行ロボットだ(写真1)。

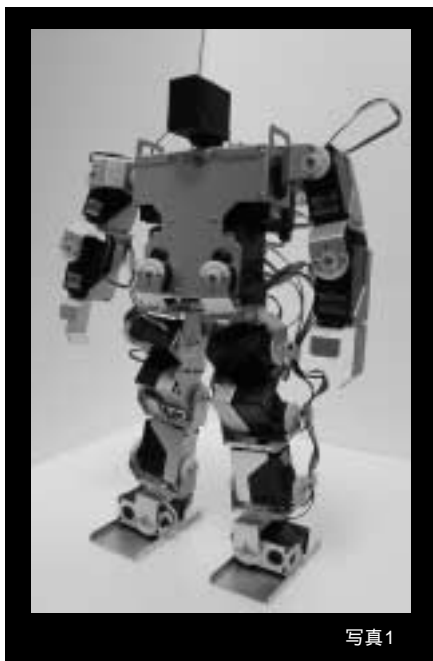


写真1

本誌ではキットの製作から始まり、モーション作り～自由度追加のオプション紹介と記事を連載してきた(そのへんはバックナンバーNo.34～36をご参照くださいませ)。その間にもどんどん増えたオプションパーツをフォローするために、今回あらためてインプレッション記事が復活した、というわけである。

標準状態でも十分楽しめるロボットだが、オプションキットを組み込めば世界はさらに広がる。他人と同じ「KHR-1」じゃ面白くない!!と思うなら、まずはオプションキットで差をつけたいところだ。

ジャイロは「ROBO-ONE」の血統ゆえ?

ジャイロセンサーユニット
ツインジャイロ: KRG-2
価格7980円(税込)



写真2

今回取り上げるのは、近藤科学(株)純正の「ジャイロ」、つまり「角速度センサー」である(写真2)。昨年末、7980円(税込)で発売され、初期出荷分はたったの2日間で完売してしまったらしいが、この号が発売される頃には次のロットが店頭に並んでいるはずである。

このジャイロが売れた理由は、おそらく2つある。

これまで「KHR-1」も含めた多くの二足歩行ロボットのモーションは、水平な場所で作り込み、コマンドに応じて忠実に再生する、という方法だった。

しかし、この方法だと、ちょっと水平が怪しいところでは転んでしまう。いざロボットを動かして遊ぼうと思ったときに「うちの床、斜めだからコタツの上しか歩けないんだよね」では寂しすぎるだろう。

ジャイロを投入すれば、機体の傾きを感知して自動的に補正をかけてくれるので、多少の段差や斜めの路面も、苦もなく歩くことができるようになる。

実際、第6回「ROBO-ONE」ではボールペンを敷いたアルミ板シーソーの上をス

イスと歩いてしまった「HSWR-05」(写真3)をはじめとして、上位陣はかなりのロボットがジャイロを使っていた。二足歩行ロボット界の今のトレンドは、ジャイロを使った姿勢制御なのである。



写真3
写真協力:
三月兔

そして、もうひとつの理由はその大きさ。ホビイストが手に入れられる既存のジャイロはほとんどがラジコンヘリコプター用で、さまざまな設定を本体のみで切り替えることができ、そのためもあって、ある程度の大きさを持っていた。ビス1本を削って軽量化に励む二足歩行ロボットにとっては、無駄な部分も多かったのだ。

そんななか発売されたこのジャイロは、10円玉より気持ち大きいだけ(写真4)で、重量は5g(「KHR-1」に付いている10cmの延長コード2本より軽い!!)。センサー機能に的を絞ったため、設定はPCにつながなければならないが、このコンパクトさがユーザーに受けたのだろう。

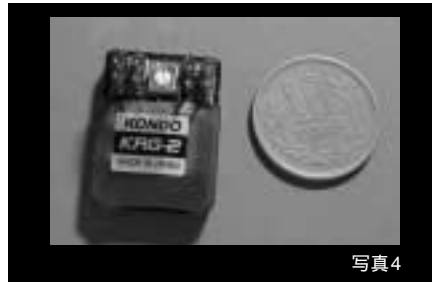


写真4